

コラム

印刷版の「北海道鳥瞰図」と『北海道十景』

北海道庁は、陸軍特別大演習及び地方行幸に際して「北海道治概況」「記念絵葉書」「名所絵葉書」「鳥瞰図」「天覧用グラフ並に写真」を作成しました*。このうち「名所絵葉書」が『北海道十景』の絵葉書、「鳥瞰図」が「北海道鳥瞰図」のパンフレットと考えられます。印刷部数は、「北海道十景」は7,000部、「北海道鳥瞰図」は10,000部印刷され、大演習及び地方行幸にかかる来賓、報道関係者、演習後の部隊関係者らに贈呈されました。

*『昭和十一年陸軍特別大演習並地方行幸北海道庁記録』北海道庁、1938年、883-885頁



『北海道鳥瞰図』北海道庁発行、1936(昭和11)年
北海道博物館所蔵(収蔵番号159259)



『行幸紀念 北海道十景 絵はがき』北海道庁発行、
1936(昭和11)年、北海道博物館所蔵(収蔵番号157999)

第3章 絵葉書・装幀 —まちのイメージを描く—

吉田初三郎の仕事は鳥瞰図だけにとどまりません。たとえば、鳥瞰図が掲載されたパンフレットの表紙の多くも初三郎が手がけています。また、各地の代表的な風景や建造物を、数枚組の絵葉書として制作するなど、鳥瞰図とは異なる手法でも各地の魅力を伝えています。これらの作品も、鳥瞰図と同様に注文を受けて制作するものです。つまり、題材となった地域にとって、観光などに向けて対外的に印象づけたいイメージが可視化されているのです。この章では、北海道内各地の鳥瞰図の表紙、絵葉書とその外袋などから、各地域が発信しようとした「まちのイメージ」を読み解きます。



『札幌』札幌市役所発行、1936(昭和11)年
北海道立図書館所蔵
「札幌市鳥瞰図」の表紙。時計台とニセアカシアを描くことで、実際の観光風景を想起させるように表現しています。



『上川支庁管内鳥瞰図』上川景勝地協会発行、1950(昭和25)年
北海道立図書館所蔵
「上川支庁管内観光鳥瞰図」の表紙。管内を代表する大雪山と層雲峡を描いています。鳥瞰図本体でも大きく表現される風景を象徴的に示しています。



『稚内市景勝絵はがき』稚内市役所発行、出版年不明、北海道立図書館所蔵

吉田初三郎が描いた北海道

YOSHIDA HATSUSABURO

鳥のような視点で広大な景色を描く「鳥瞰図」。吉田初三郎は全国各地の鳥瞰図を描いたことで知られています。本展では、完成から90周年の「北海道鳥瞰図」と十枚組風景画『北海道十景』を一挙公開！北海道内各地の観光パンフレットや絵葉書に掲載された鳥瞰図や風景画にも注目し、かつての北海道の姿をたどります。



吉田初三郎の肖像写真、北海道博物館所蔵(収蔵番号190853)

吉田初三郎(1884-1955)

京都出身。幼少期より絵が好きで、京都三越の友禅図案部での勤務などを経て洋画家を志すも、起業して商業美術家に転身。仕事の一環として手がけた「京阪電車御案内」(1913年)が当時の皇太子(後の昭和天皇)から「これはきれいでわかりやすい」と評価を受けたことを契機として、鳥瞰図を仕事の中心に据えることを決意。生涯で少なくとも1600種以上の作品を残しました。近年、「Beautiful Japan 吉田初三郎の世界」(府中市美術館、2024年)、「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」(神奈川県立生命の星・地球博物館、2025年)、「吉田初三郎没後70年記念展 美の国、日本を描く」(久留島武彦記念館、2025年)などの展覧会が開かれ、ますます注目が高まっています。

第1章 鳥瞰図 —空から見たまちなみ—

主役となる地域とその周辺を大胆な構図で描いた初三郎の鳥瞰図。その多くは、全国各地の自治体や観光協会などからの依頼により制作され、観光案内などの折りたたみ式パンフレットとして人びとの目に触れてきました。初三郎は、現地取材したうえで、地域の見どころが目立つように、描写の細かさ、大きさ、配置、色彩などあらゆる面に工夫を凝らしました。この章では、北海道内各地の鳥瞰図をとらして、初三郎が描き出した各地の魅力をたどります。

『旭川市大鳥瞰図』旭川市(旭川市役所発行、1936(昭和11)年)に掲載、北海道博物館所蔵(収蔵番号158043)



画面中央部に、河川に囲まれた旭川市街地が広がっています。道路はオレンジ色、鉄道路線や路面電車の軌道は赤色など、交通網が分かりやすく示されています。初三郎は、意図的に方位や距離を調整することで対象地域を大きく扱い、見どころを描きました。本作では、旭川市街地が画面の大部分を占めるほか、1934(昭和9)年に国立公園に指定されたばかりの大雪山が詳細に描かれています。また、遠く道央から道南にかけての海岸線や、地平線上には富士山までも画面に収めており、北海道内外からの観光客にも親しみやすいように旭川市を表現しています。

第2章 肉筆画 —北海道鳥瞰図と北海道十景—



↑「北海道鳥瞰図」1936（昭和11）年、北海道博物館所蔵（収蔵番号041915）



↑「北海道十景」(10枚組) 1936（昭和11）年、北海道博物館所蔵（収蔵番号041916）、
左から「地球岬雪吹風」「阿寒湖之麗色」「然別湖之春色」「層雲峽銀河之瀧」「大雪山と旭橋」「根室より千島を望む」「支笏湖之静寂」「大沼公園」「小樽港之月明」「札幌神社」

■ 完成から90周年の「北海道鳥瞰図」と『北海道十景』

遙か上空から見下ろしたような北海道のすがたを、横幅約5.7mの大画面に描いた「北海道鳥瞰図」。そして、10枚組の作品として北海道内各地の風景を描いた『北海道十景』。これらの作品は、1936（昭和11）年秋に昭和天皇の来道のもと開催された陸軍特別大演習と、併せて実施された地方行幸に向けて、北海道庁の注文により制作されました。各地の中心都市やそれをつなぐ交通網、国立公園や温泉街といった景勝地や観光地など、当時の北海道の開発状況や魅力的なスポットを伝える作品となっています。この章では、「北海道鳥瞰図」及び『北海道十景』の肉筆画（手描きの作品）を一挙公開します。

北海道博物館の収蔵資料検索システムで作品画像をご覧いただけます。



北海道鳥瞰図



北海道十景

※「北海道鳥瞰図」(収蔵番号041915)の収蔵資料登録上の資料名は「北海道鳥瞰図屏風」のため、収蔵資料検索システム上ではそのように表示されますが、作品に「北海道鳥瞰図」と記載されていること、制作当初は額装であったと考えられることなどから、本展では「北海道鳥瞰図」と呼称します。

■ 「北海道鳥瞰図」にみられる細かな表現



北海道庁の外観

札幌周辺地域には、作品の注文主である北海道庁の建物が描かれています。この建物は、現在「赤れんが庁舎」として親しまれています。本作の制作当時は八角塔が撤去された状態でした。



「蝦夷富士」の愛称をもつ羊蹄山

本作は、全体としては北海道を斜めに見下ろす視点をとっていますが、羊蹄山は地上からみたように側面が描かれています。その円錐形は羊蹄山が「蝦夷富士」の愛称をもつことを想起させます。



阿寒国立公園と大雪山国立公園

1934（昭和9）年に阿寒国立公園と大雪山国立公園が誕生しました。自然のみならず道路や温泉などの人工物も描かれ、利便性が高く快適に過ごせることが示唆されています。



林業試験場などの試験研究施設

試験研究施設が目立つように描かれています。野幌の林業試験場、琴似の工業試験場や農事試験場など、北海道にある資源の利用について研究する施設が各地に表現されています。